

GIGA スクール通信



G I G A…Global and Innovation Gateway for All

今号担当：教育課程担当・教育政策担当

○国語科の実践について

宮の森小学校の勝谷亮太先生による5年生の「言葉をよりすぐって俳句を作ろう/日常を十七音で」という単元における実践を紹介します。

集めた言葉を整理し言葉の順序を工夫する個人学習の場面と、互いの俳句のよさや工夫について交流する場面において、**jamboard**を活用した実践です。

俳句に使いそうな言葉を書き出し、それらの言葉を並べ替えたり、つなげたりしながら、俳句を考えるよう指示したそうです。言葉の入れ替えや加除修正などの編集作業が、画面上で容易にできることから、ノートやワークシートよりもスムーズに考えを整理できたようです。また、交流する場面では、交流用の

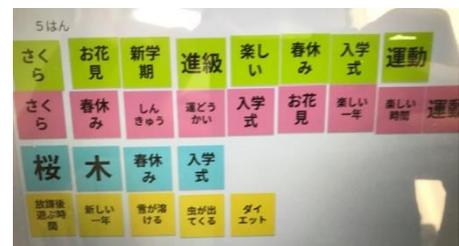


(あんな) 帰り道	(菜那) 幼稚園
(あんな) 帰り道	(菜那) 幼稚園
いつまでも	スイカを割って
ふる	食べれるよ
花の雨	
3	4

交流用

jamboardを用意し、同時に全員の作品を読み合うことができるように工夫したそうです。それにより、多くの作品に触れることができ、互いの良さをたくさん見つけるとともに、自分の作品の手直しにも効果があったようです。

西岡南小学校の早坂駿一先生による5年生の「春の空」という単元における詩の創作の実践でも、**jamboard**を活用したようです。事前に、班の名前を書いたシートをクラスルームのストリームに添付して、子どもたちが編集できるようにしたそうです。付箋は自由に動かしたり、サイズを変えたりすることができるので、子どもたちの判断で色ごとに並び替えるなどの工夫も見られたようです。



○生活単元学習の実践について

定山溪小（石田先生、平間先生）、澄川南小（影山先生）、藻岩小（中川先生）、石山緑小（大津先生）の4校の特別支援学級では、事前に学校間で個人情報保護のための取り決めを行った上で、**Meet**を使って、定期的に、15分程度の交流を行っているそうです。

画面を通しての交流では、注意深く相手の表情を見て反応をする必要があるため、対面での交流にも生かすことのできるコミュニケーションスキルの向上につながるのではないかと考え、取組を進めているとのこと。



目標（一部抜粋）

- ・相手の立場や気持ちに応じてふさわしい言葉使いができる。（自立）
- ・相手への伝わりやすさを意識して話すことができる。（国語）
- ・交流の中で気付いたことを毎日の生活に生かそうとする。（生活）

★実践例については、**校務支援システムのキャビネット（000_GIGA スクール関連/500_1人1台端末活用実践例）**に掲載してあります。

★教科の実践等、引き続き、御応募をお待ちしています。（応募に係る詳細は**第12号**を参照ください。）